

2023年2月8日(水)第二水曜祈祷会

創世記13章1～18節

「さあ、目を上げて」

■創世記12章1～20節 『アブラムを召す主』 *「召し」とは「呼ぶ」「招く」の尊敬語

- ①アブラムは住み慣れた土地、父の家を離れて、主が示す地へ行きなさいという召しを受けた。
- ②アブラムは家族とともに主が告げられたとおりに出発した。その時、彼は75歳であった。
- ③アブラムは約束の地で主のために祭壇を築くが、まだ信仰者としては未熟な者であった。

■創世記13章1～18節 『さあ、目を上げて』

1. 信仰の原点に帰る(13章1～6節) *「主の御名を呼び求めた」…「主に祈った」の意味。

- ①アブラムはエジプトを出た時、どうして家畜と銀と金を非常に豊かに持っていたのですか。
→
- ②アブラムが最初に祭壇を築いた場所で天幕を張ったのはどういう意味がありますか。
→
- ③アブラムとロトの財産が増えたことによってどんな問題が発生しましたか。
→

2. 信仰による選択(13章8～13節) *「親類同士」…「兄弟」。叔父と甥以上の関係を示している

- ①アブラムはロトとの間で争いが起きないために、どんな提案をしましたか(9節)。
→
- ②ロトはどのような理由でヨルダンの低地を選んでいきましたか。
→
- ③ロトは低地の町々からどうしてゾドムに移り住んでいったのですか。
→

3. 主の約束に従って(13章14～18節) *「目を上げて」…信仰の目をもって見ること。

- ①主はアブラムにどんな約束をされましたか。
→
- ②「立って」「歩き回れ」とは何を意味していますか。
→
- ③アブラムが天幕をヘブロンに移して祭壇を築いたことはどんな意味がありますか。
→

【適用と分かち合い】

- ①あなたは今まで信仰の原点に立ち返った経験がありますか。
- ②あなたは今までどのような時に信仰による選択をされましたか。
- ③あなたにどのような主の約束を信じていますか。